

## 校長会へ要請書提出

瀬教労は校長会に対して、7月29日、以下の内容で要請書を提出しました。詳細は、組合HPをご覧ください。

「変更簿の使い方」を全職員に分かりやすく説明すること。

1. 教職員の多忙化解消に向けて、当面、県教委や文科省が発表した「教員の多忙化解消プラン」の具体化に向け、関係機関への働きかけを含めて取り組むこと。

5. 暴言や侮辱といったパワハラやメンタルは、教職員の身分の侵害及び人権侵害につながる重大問題であり、絶対に行わない、行わせないこと。「パワハラ防止指針」(2020.3.31一部改正)を全員に配付すること。

8. コロナ対策について市教委に働きかけること。  
(1) 集団感染によるリスクが高い教職員等への定期的なPCR検査を行うこと。

7. ICTについて、国や自治体(愛知県・瀬戸市)に働きかけること。  
(1) 教職員の負担軽減と専門職員の配置すること。

2. 校長が命じた時間外勤務については、その割り振りを行うのは校長の責務であり、すべての教職員が割り振りをきちんと取れるようにすること。また、日常でも割り振りを取りやすくするために、個人別の割り振り変更簿を設置し、その活用に向け、以下の内容に留意すること。

(1) 「割り振り変更簿を設置した」と「割振り

6. 「在校時間状況記録」より把握できる超45時間・80時間・超100時間の時間外労働をしている教職員に対し改善策を示すとともに、該当者が医師の面接指導を確実に受けるように指導すること。

いっそうの長時間労働をまねく「1年単位の変形労働時間制」の導入をしないように市に申し入れること。

## 教科担任制

中教審は今年一月に理科、算数、英語について教科担任制を答申した。そして、文科省は、体育を新たに加える方針を固めた。人材確保で特例を作るようだが、現在職場で問題になっている課題を洗い出して、教育条件整備を行っ

## タブレットアンケート

瀬教労は、タブレット端末のアンケートに取り組んでいます。HPにアンケート項目が添付してありますので、是非ご協力をお願いします。



## 教員免許更新制について

教員免許更新制を文科省が廃止検討、早ければ来年の通常国会で教職員免許法改正案の提出を目指すとしている。

「指導力不足の教員」対策や教員の資質向上策として2009年に導入された。

受験費用が自己負担、10年ごとに30時間程度の更新講習が必要で、手続きをしないと教員免許が失効する。

多忙な教員の働き方改革の動きに逆行し、出産や育児、病気等で休む教員の代わりに臨時任用教員や非常勤講師の受け皿となってきた代替教員の確保が困難な状況を作り出している。

この間の検証は十分行われているとは言いがたい。制度を続ければ、教員に未配置(教員不足)が深刻化し「教育に穴があく」という深刻な事態となっている。



現場は、10年間苦しめられてきた。しっかり検証を!

## コロナ禍で

### 子どもたちの様子

#### 学校で

てほしいものだ。  
※正規教員の確保 ※教員養成や再任用制度のあり方 ※担任と教科担任等の打ち合わせ時間確保など、改善が望まれます。意見をお寄せ下さい。

暑い日差しの中、運動場で元気に遊ぶ子どもたち。「元気だなあ」と思いながらも一抹の不安が顔をよぎります。そう、熱中症です。コロナ感染予防のためにマスクを着けることが日常の中に入り、ずっと「マスク着用」を指示され、忠実に守っている子どもたちです。

「2メートルのソーシャルディスタンスがあればマスクを外してもよい」とか「コロナ感染の恐れより熱中症に気を付けて」とか科学的な視点から専門家が訴えています。子どもたちの頭には入っていないみたいですね。

「どんな場面か」というのはマスクを外した方が良いか。指導が必要ではないでしょうか。教師が、大人が気をつけて指導することによって、熱中症を予防することができるのです。

熱中症予防対策として暑さ指数(WBGT)を計測する機器が学校にありますか。

31以上だと危険(運動は原則中止)、28~31でも厳重警戒(激しい運動は原則中止)です。コロナ対策としての「マスク着用」と熱中症対策として

## 平和を考える

7月17日(土) 西陵地域交流センターで水野西陵・こはんすいなん9条の会主催の「お話しと学習の集い」がありました。  
『戦争体験を語りつぎ、平和のバトンを子ども達に』のテーマで、体験談を聞いた後、映像を見て交流を行いました。参加者は26名でした。



水野先生のお話(紙芝居で戦争体験談)



タブレット アンケート 2

【タブレットの使用について】  
タブレットを用いることが目的となっていて、強効が利用できていないと強く感

5回ほどありましたが、やっ  
てみたが、やっ  
たこと一度も  
ありませぬ  
し、やること  
が増えるだけ  
も、うんざり  
です。



【GIGAスクール構想・タブレットについて】  
ムダだと思っ  
かたちのため  
タブレットの  
ための子ど

タブレット端末で健康被害は？

クレスコ(244)の「スマホ+ICT端末で深刻化する健康被害」(大谷良光)の記事の一部を紹介します。

**【近視・強度近視の高い有病率】**  
2019.8「小中学生の近視増加傾向への警鐘～都内小学生の80%、都内中学生の95%が近視～」(坪田慶広)と発表しました。眼軸長測定とオートレフ(自動屈折計)を用いた測定の結果です。また、強度近視の割合は小学生4%、中学生11%でした。これまで行われてきた「ランドルト環視力測定」です。健康診断の視力測定も時代に合った新たな測定が望まれます。

**【なぜ近視、強度近視が急増したか】**  
近視、強度近視の要因として遺伝性と環境性があり、近年の増加は環境性が主因と指摘されています。  
要因は、読書の視距離は平均33cm、スマホは19cm、タブレットは24cmというデータから、近業による使用と利用時間の相互関係が明確になってきました。対策をとらないと今後、この勢いは加速するものと思われます。  
要因の2つめは外遊びの減少です。眼球の伸びを抑えるのは太陽光のバイオレットライトあるといわれ、太陽光をたっぷり浴びることは、良い睡眠や健康な体力づくりにとっても必要といわれています。

- 【端末環境での予防と対策】**
- ①依存性が高い機器であることを自覚し、端末と対峙するという姿勢で扱う。
  - ②ICT教育で端末使用が場合、授業外での使用を減らし、総利用時間を減らす。
  - ③「便利」「楽をする」ことは発達にとって必要な行動を阻害、退化させることを理解して対応する。
  - ④家庭でのルールとボトムアップの学校・学級・級友間でのルール作りが必要。
- 眼に関わる予防と対策は、
- ①眼から30cm以上離して見る。
  - ②20分ぐらい見たら、6m離れた遠くのものを見つめて20秒ほど見る。
  - ③外に出て、太陽の光を浴びる。

**【ネット健康被害は脳でも深刻】**  
教師は、ネットリスクについて理解し、端末と対峙して支援を訴えています。  
また、「デジタル依存、頭はすでに『スマホ脳』、デトックス(解毒・浄化)は外活動(遊び)と読書で」と結んでいます。



中教審答申、ICTが万能か？

中教審答申『令和の日本型学校教育』の構築を目指しては、「全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(答申)【概要】で、急激に変化する時代(①社会の在り方が劇的に変わる「Society5.0時代」の到来、②新型コロナウイルスの感染拡大など先行き不透明な「予測困難な時代」)の中で育むべき資質・能力を、ICTの活用により、「一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが必要」としている。

最初に出てくる「令和」の元号にまず違和感を覚える。「他者を価値ある存在として尊重」や「持続可能な社会の創り手」など魅力的な言葉をちりばめて解説しているが、現在に至るまでの教育の流れを確認しておく必要がある。

時期等	名称等	内容等
2018年6月	未来投資戦略2018	財界・大企業の危機感:「手をこまねいて後手に回ると、日本は新たな国際競争の大きな潮流の中で埋没しかねない」「義務教育終了段階での理数の能力は国際的にもトップクラスだが、その能力をその後に必ずしも十分に伸ばせていない」「教育改革と産業界の育成・活用改革に向けてあらゆる施策を動員」 ⇒小学校のプログラミング学習、経産省「未来の教室」EdTechによる民間教育産業の参入拡大、「AI人材」育成
2018～2022年度	教育のICT化に向けた環境整備5か年計画(文科省)	単年度1805億円の地方財政措置を5年間実施:「学習者用コンピュータ3クラスに1クラス分程度整備」「超高速インターネット及び無線LAN」 ※2019年3月時点:コンピュータ 児童生徒5.4人に1台 普通教室の無線LAN 41.0%
2019年6月	規制改革実施計画(閣議決定)	「パソコンなどのデジタル機器は、これからの学校教育において、机や椅子と同等に児童生徒一人一人に用意されるべきもの」 ⇒「1人1台端末」による「GIGAスクール構想」が形成される
2019年8月	GIGAスクールネットワーク構想の実現	2020年度文科省概算要求に「すべての教室まで高速かつ大容量の通信ネットワークの整備」推進のための予算要求
2019年度補正予算 2020年度1次補正	GIGAスクール構想	「AI人材」早期育成を至上命題とする財界・大企業の圧力や、「教育業界」に「障壁」を拡大しようと画策する経産省との「競争」の中で、文科省としてとりくみを加速するため、「GIGAスクール構想」について2019年度補正および2020年度1次補正で合計4610億円もの多額の予算を措置

上の表にあるように、財界・大企業の要求とコロナ禍を「利用」して「教育のICT化」、「ICT万能論」が推し進められてきている。教師にとって重要なことは、目の前の子どもたちとの直接的な触れ合い、語り合う中で、教育の本質と教師の任務を繰り返し問い直し、人としての学びの機会を提供していかなければならない。